



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

令和5年 12月26日

東京都知事 小池 百合子様
東京都都議会議員 宇田川 聡史様
東京都環境影響評価審議会会長 柳 憲一郎様
三井不動産株式会社代表取締役社長 植田 俊様
宗教法人明治神宮宮司 九條 道成様
伊藤忠商事株式会社代表取締役社長 石井 敬太様
独立行政法人日本スポーツ振興センター理事長 芦立 訓様

(一社) 日本イコモス国内委員会委員長 岡田 保良
(一社) 日本イコモス国内委員会
文化的景観小委員会主査 石川 幹子
住所: 東京都千代田区一ツ橋 2-2-5
岩波書店一ツ橋ビル 13F
(株)文化財保存計画協会 気付
法人名: (一社) 日本イコモス国内委員会
連絡先: Tel/Fax 03-3261-5303
Email jpicomos@japan-icomos.org



**「神宮外苑地区市街地再開発事業環境影響評価書」におけるイチョウ並木の現況調査
に関する虚偽の報告、及び事業に伴う環境影響評価の欠落に関する、
東京都環境影響評価審議会における科学的、公明正大な審議と再審の要請**

市街地再開発事業が進められている神宮外苑は、世界に誇る文化的資産 (Cultural Heritage) です。現在、神宮外苑を象徴するイチョウ並木で、地球温暖化に伴う気象変化に加えて不適切な土地利用が原因と推測される、深刻なイチョウの衰退が進行しています。この問題は、日本イコモスが指摘し、また事業者におかれましても、「認識していた」と回答されています。しかしながら、2023年1月20日に提出、受理された環境影響評価書では、審議会委員からの度重なる要請を踏まえて2022年春に追加調査が実施されたにも関わらず、イチョウ並木に関しては5年前のデータがそのまま提出され、見直されることはありませんでした。2023年12月末に至っても事業者からの報告は全く行われていません。

環境影響評価書における、①イチョウの現状分析における虚偽の記載、②野球場建設による影響の分析、及びこれに基づく緩和・回避策の欠落、③根系調査の非公開、④「移植不可」



ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

と判断されている秩父宮ラグビー場のイチョウの対応等の根本的問題が明らかにされていないため、東京都環境影響評価審議会の再審が必要と考えます。

日本イコモス国内委員会は、環境影響評価法の精神に基づき、事後報告ではなく、正しい現況分析と影響評価が行われるべきであるとの主旨から、令和4年11月～令和5年11月にイチョウ並木（146本）の調査をおこないました。その結果、令和4年には著しい衰退がみられるイチョウは1本、要注意と判断されるイチョウは5本でしたが、令和5年には衰退が更に進み4本に増大し、要注意のイチョウは4本となっていることが明らかになりました。これは、並木沿道の人的利用の影響に加えて、東京においては、2023年には、観測史上、はじめての猛暑日の連続を記録しており、地球温暖化の影響がイチョウに顕著に表れているものと考えられます。

今後、再開発が進展し、イチョウの直近に神宮球場が建設され、水循環が遮断され、日照、通風条件が悪化すれば、イチョウ並木の永続的保全は、極めて困難になると推察されます。

事業者におかれましては、イコモス（International Council on Monuments and Sites : 国際記念物遺跡会議）が、2023年9月7日に発した「ヘリテージ・アラート」[Heritage Alert Jingu Gaien - International Council on Monuments and Sites \(icomos.org\)](https://www.icomos.org/jingu-gaien-heritage-alert) に、真摯に回答されることを要望いたします。

東京都知事小池百合子様におかれましては、東京都環境影響評価条例第九十一条第一項第五号の規定に基づき、当該事業者に対し、必要な措置を講ずるよう勧告をお願い申し上げます。また、事後報告ではなく、環境影響評価審議会の再審を要請致します。

環境影響審議会において再審が行われ、多くの市民が納得できる公明正大な科学的論議が尽くされるまで、「大量の樹木の伐採」は行わないよう、事業者への指導をお願い申し上げます。

<追記>

イチョウの現況調査、「移植検討」（秩父宮ラグビー場）、根茎調査等につきましては、これまで十分な時間があり、また、再三の要請を行ってまいりましたので、2024年1月20日までに、御回答を賜りたく、お願い申し上げます。



目次

1. イチョウ並木の調査内容（2022年11月～2023年11月）	5
(1) 調査の目的	
(2) 調査の方法	
(3) イチョウの位置と番号	
(4) 市街地再開発事業が「イチョウ並木」へ与える影響	
(5) 地球温暖化に伴う猛暑日の増加とイチョウへの生育への影響	
2. 環境影響評価書におけるイチョウのデータ（2023年1月20日提出）と 著しく異なるイチョウについて（2022年4月～2023年11月）	11
(1) 環境影響評価書（2023年1月20日提出）における記載内容	11
(2) 環境影響評価書における樹木調査の内容	12
(3) 衰退の著しいイチョウ	13
1) 青山口から絵画館にむかって一番左側の列（A列）11番のイチョウ	
2) 青山口から絵画館にむかって一番左側の列（A列）16番のイチョウ	
3) 青山口から絵画館にむかって一番左側の列（A列）18番のイチョウ	
4) 青山口から絵画館にむかって一番左側の列（A列）22番のイチョウ	
(4) 衰退の兆候がみられ、慎重な経過観察が必要なイチョウ	26
1) 青山口から絵画館にむかって一番左側の列（A列）12番のイチョウ	
2) 青山口から絵画館にむかって一番左側の列（A列）17番のイチョウ	
3) 青山口から絵画館にむかって一番左側の列（A列）20番のイチョウ	
4) 青山口から絵画館にむかって左から2列目（B列）26番のイチョウ	
(5) 樹形の変容が顕著となっているイチョウ	30
1) 青山口から絵画館にむかって一番左側の列（A列）29番のイチョウ	
2) 青山口から絵画館にむかって左から3列目（C列）13番のイチョウ	
3. 環境影響評価書では「移植不可能」と判断されている港区道1107号線（秩父宮ラグビー場入口）のイチョウ	32
(1) 港区道1107号線（秩父宮ラグビー場エントランスの並木）のイチョウの現状と 「移植検討」の内容の公開の要請	32
1) 港区道1107号線（秩父宮ラグビー場エントランスの並木）E列1番のイチョウ	
2) 港区道1107号線（秩父宮ラグビー場エントランスの並木）E列2番のイチョウ	
3) 港区道1107号線（秩父宮ラグビー場エントランスの並木）E列3番のイチョウ	



ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

4) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 4 番のイチョウ	
5) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 5 番のイチョウ	
6) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 6 番のイチョウ	
7) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 7 番のイチョウ	
8) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 8 番のイチョウ	
9) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 9 番のイチョウ	
10) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 10 番のイチョウ	
11) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 11 番のイチョウ	
12) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 12 番のイチョウ	
13) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 13 番のイチョウ	
14) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 14 番のイチョウ	
15) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 15 番のイチョウ	
16) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 16 番のイチョウ	
17) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 17 番のイチョウ	
18) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 18 番のイチョウ	
(2) イチョウの仮移植地と土壌の内容の公表の要請-----	52
(3) 最終の植栽地 (中央広場) における移植樹木の正しい樹幹、樹種が判読できる図面の 公開の要請。18 本のイチョウの位置の明示と公表の要請-----	52
4. 市街地再開発事業に伴い、想定される影響-----	53
(1) 神宮球場の建設に伴う影響-----	53
(2) 文化交流棟の建設に伴う影響-----	53
(3) 再開発による近代の名作・神宮外苑のヴィスタ景の破壊-----	54
5. むすび-----	56



1. イチョウ並木の調査 (2022年11月～2023年11月)

(1) 調査の目的

神宮外苑イチョウ並木は、総数146本であり、1923年に当地に植栽されてから、1本も枯死することなく、100年の星霜を積み重ねてきました。現在、東京のみならず、日本全国、そして世界各国の人びとが訪れる「美しい並木」となっております。

この並木は、新宿御苑の旧玉川上水沿いの火防樹として、江戸期に植栽されていた、イチョウから、明治43年(1910年)頃、当時内務省技師として新宿御苑と代々木御料地(現在の明治神宮内苑)に奉職しておられ、後に外苑整備を担われた折下吉延先生が、銀杏(ギンナン)を採取され、苗木を育成し、1923年に、この地に植栽されたものです。したがって現在の樹齢は113歳、くしくも2023年は、「イチョウ並木・100周年」の節目の年でした。

しかしながら、2021年ごろより、一部のイチョウの衰退、枯損が急速に進んでおり、深刻な事態が生じています。原因の究明のために、緊急調査が必要ですが、イチョウに加えられた盛土や舗装に加え、大きな要因として、本年、東京において記録された観測史上初の猛暑日の連続等、**地球温暖化に伴う環境の変化が想定されます。**

外苑地区市街地再開発事業において、イチョウ並木の道路境界より、わずか8mの位置に新神宮球場が建設される計画となっており、その影響は重大な問題であることから、日本イコモスのみならず、東京都環境影響評価審議会においても、評価書案に記載された内容に関する根拠の不明確さが指摘され、最新の情報の提示と、永続的保存に向けた科学的根拠の提示が求められてまいりました。しかしながら、事業者は最新のデータを提示することなく、2023年1月20日に提出、受理された環境影響評価書は、2018年12月～2019年1月に調査された5年前のデータでした。審議会では、事業者からのみの説明が行われ、2023年5月18日の「東京都環境影響評価審議会」第2回総会において、会長より「評価書の調査・予測・評価に重大な変更が生ずる手続き上の問題、誤り、虚偽はなかったことが確認された」として、審議は終了となりました。

この調査は、文化的資産である「イチョウ並木」の未来永劫にわたる保全のために、人的負荷及び、地球温暖化に伴う気象の変化に直面しているイチョウの現状と危機を、正しく認識し、社会全体がこの事実を直視し、未来を共に考えるための根拠として、国際NGO・日本イコモス国内委員会が、2022年11月～2023年11月にかけて実施したものです。環境影響評価書における、イチョウ現状分析における現状との大きな隔たりに焦点を絞り、イチョウが直面する危機を明らかにするものです。

なお、申すまでもないことですが、外苑のイチョウ並木は、総数146本であり、青山口から絵画館にむかって4列の並木(128本)と、秩父宮ラグビー場(元女子学習院正門)の二列の並木(18本)から構成されており、イチョウ並木の保全は、この146本を対象とするものです。東京都及び東京都環境影響評価審議会におかれましては、この事実を正しく認識され、事業者に対して、適切な指導と勧告を行っていただきたく、要望いたします。



(2) 調査の方法

- ・日時：2022年10月29日～11月6日
2023年2月10日、3月12日、4月1～12日、4月27日、6月23日、
7月27～29日、8月19日、9月20日、10月11日～20日、11月3日～29日
- ・方法：事業者が開示された毎木調査表（2018年12月25日～2019年1月28日）を参照し、「公道」より、目視により調査。146本のデータシートを作成。
データシートをもとに、2022年11月～2023年11月までの変化を記録。
- ・視点：① 全体：樹勢、樹形、枝の伸長量、幹や大枝の欠損や腐朽状況、緑量、葉色、葉の大きさ、葉の密度
② 先端部の状況を精査
③ 地上部の利用状況
④ 周辺環境の影響
⑤ 保全に向けた今後の課題

樹木は、一般に同じ気候帯では、同一樹種の特徴は、ほぼ同じとされています。しかし、実際には生育する環境により多様な変化がみられます。写真1は、2022年11月3日に撮影した、外苑青山口から絵画館方面の「いちょう並木」で、写真2は、1年後の2023年11月23日に、港区道1107号線との交差点から撮影したものです。



写真1 イチョウ並木（2022年11月3日） 写真2 イチョウ並木（2023年11月23日）

樹木により、黄葉が多様であるのは、個体差だけではなく、都市環境における、日照・通風・樹木相互の位置関係・道路からの輻射熱等、様々の生理的ストレスによる複合作用に起因しています。

黄葉している樹木の先端部分を詳細にみますと、先端部分の枝の分岐、枯損などが見られ、樹木全体のバランスの崩れが、先端部に顕著に出現していることがわかります。このため、今回の調査では、通常の調査に加えて、先端部の状況を把握するものとし、146本のデータシートに、基本的に、①樹形全体、②先端部の状況、③枝の伸長状況と緑量、④地上部の状況の4つの写真を挿入し、わかりやすいデータシートの作成を行い、2022年11月～2023年11月までの変化を調査しました。



(3) イチョウの位置と番号

事業者が提出したイチョウの番号は、通し番号になっており、わかりにくいいため、この調査では、青山口から絵画館に向かって、4列の並木を、左より順に、A列(30本)、B列(30本)、C列(34本)、D列(34本)とし、港区道1107号線(秩父宮ラグビーのエンタランス)を、E列(18本)とし、番号をつけました、環境影響評価書の番号と併せて表示しています(図1~2参照)。

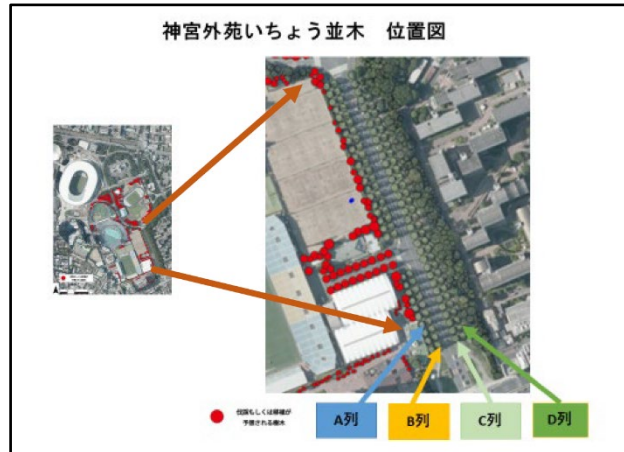


図1 イチョウ並木 A列~E列

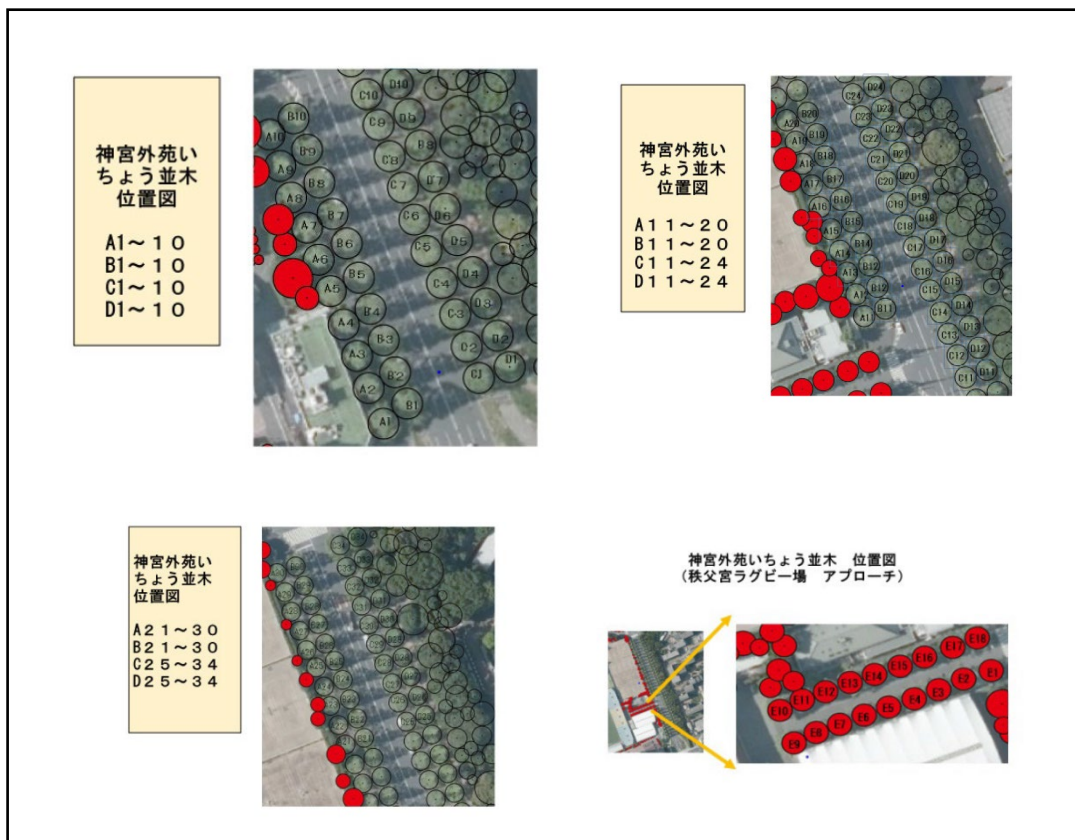


図2 イチョウ並木番号 A~E列



(4) 市街地再開発事業が「イチョウ並木」へ与える影響

1) イチョウの至近距離への神宮球場外野スタンドの建設

市街地再開発事業により、イチョウ並木の散策路の境界から、わずか8 mの位置に神宮球場の外野スタンドが建設される計画となっています。図3は、その詳細をあらわしたものであり、散策路境界からイチョウの樹幹の中央部までは、約2 m、野球場外野スタンド建設のため、40mの杭が打ち込まれる計画となっており、水循環は絶たれることとなります。また、建設のための堀割は最小であっても2 mは、必要であり、結果的にイチョウの値が生育できる空間は、樹幹中央部から、**わずか4 m**となります。イチョウが今後とも、良好に成長を続けていくための空間の確保は困難です。

日照の遮断、通風の阻害、人流の増大に伴う踏圧による土壌の硬化等、大きな環境の負荷が生じます。

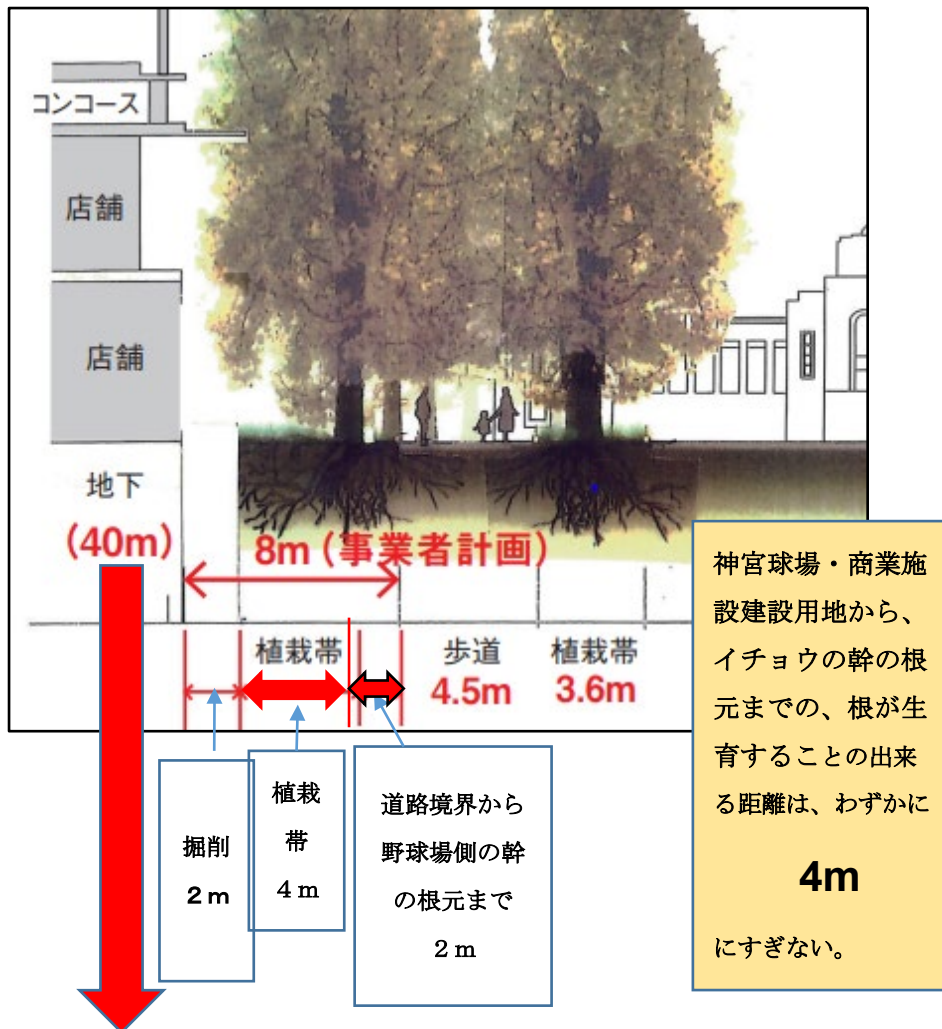


図3 イチョウと新しく建設される計画の神宮球場・外野スタンド



2) 秩父宮ラグビー場入口のイチョウ並木の撤去と文化交流施設等の建設

図4は、事業者により提案されている市街地再開発事業の全体を示したものです。この計画により、秩父宮ラグビー場のエントランスである2列18本のイチョウ並木は、当初の伐採から移植検討となっていますが、その内容は、まだ明らかにされていません。イチョウ並木の直近には、神宮球場だけでなく文化交流施設も建設され、中央広場の主要な動線も計画されています。イチョウの衰退を踏まえて、どのような影響が生じるかは、環境影響評価書には、一斉、記載されていません。しかしながら、審議会では、「影響は生じない」として結審となりました。本項では、イチョウの現在の状況を踏まえて、再開発により生じる甚大な影響について考察を行います。



図4 市街地再開発事業に伴うイチョウ並木への影響



(5) 地球温暖化に伴う猛暑日の増加とイチョウの生育への影響

2020年以降、イチョウの衰退が急速に進んでいますが、イチョウの特色、人的負荷の状況は、個々のイチョウにより異なりますが、全体に共通するものが気象条件です。

表1は、2020年から2023年にかけての東京における猛暑日（最高気温が35℃以上）の月別日数を、気象庁の過去の気象データに基づいてまとめたもので、観測地は東京都千代田区です。2020年以降、猛暑日は急激に増加しており、2023年は観測史上、最高の猛暑日を記録しています。<https://www.teguchi.info/weather/summer/extremely-hot-day/>

猛暑日の増加について、気象庁は、2023年8月29日、日本付近での亜熱帯ジェット気流の影響に加えて、「持続的な温暖化傾向に伴う全球的な高温化傾向の影響が加わった」と発表しています。

<https://tenki.jp/forecaster/desktop/2023/08/29/24986.html#sub-title-c>

イチョウは、新芽が出たあと、6月～7月にかけて、枝葉を伸ばし成長していくため、この時期における猛暑日の増加は、特に衰弱しているイチョウにとっては、大きな負荷を与えることとなります。

地球温暖化による環境への影響は、人類が直面する未知の領域であり、外苑のイチョウの急速な衰退は、社会に対する警鐘として真摯に向き合うことが重要であると考えます。

東京都環境局におかれましては、イチョウが身を以て示す事実謙虚に向き合い、正しいデータの作成を行い、市街地再開発事業による環境への影響評価を、法の精神に基づいて実施することが重要であると考えます。

表1 東京都における猛暑日の月別日数（2020年～2023年）

年	6月	7月	8月	9月	合計
2023年	0	11	18	3	32
2022年	4	4	8	0	16
2021年	0	2	6	0	8
2020年	0	0	22	2	24

出所：<https://www.teguchi.info/weather/summer/extremely-hot-day/>



2. 環境影響評価書におけるイチョウのデータ（2023年1月20日提出）と著しく異なるイチョウについて（2022年4月～2023年11月）

(1) 環境影響評価書（2023年1月20日提出）における記載内容

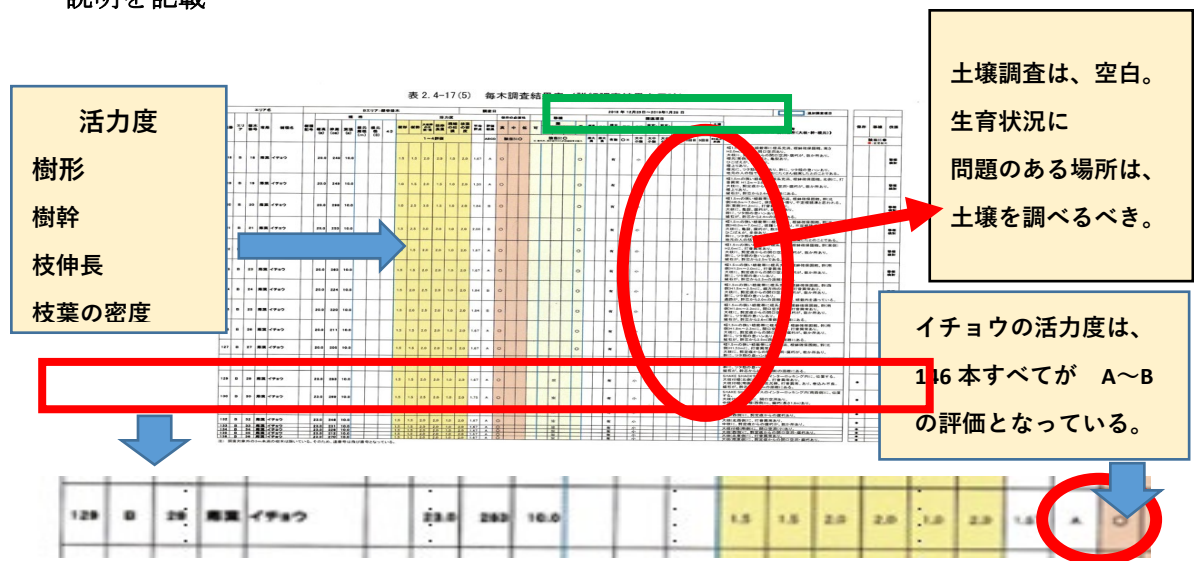
表2は、環境影響評価書におけるイチョウの現状調査のデータの一部です。調査年月日は、2018年12月～2019年1月です。審議会委員からの再三の要請に対して、事業者は2022年春に詳細調査を行っていますが、イチョウ並木に関しては、活力度、関連項目（根元構造物等）及び備考の欄も含めて、2018年の調査と全く同じデータです。秩父宮ラグビー場エントランスのイチョウが伐採から移植検討に変更が行われているのが、唯一の相違となっています。

事業者は、イチョウの衰退の事実を十分認識していると、すでに、2022年10月に回答しておられ、また、2023年5月18日の審議会においても、「2022年の春には、先端から新芽がでていることを確認している」と回答しています。「イチョウの活力度については、6月頃に調査を行い、事後調査で報告する」と述べられていますが、2023年10月31日には12月以降に提出と延期され、12月26日現在、報告は行われていません。

このように、イチョウに関する環境影響評価書の記述は、誤りではなく、事実を知りながら、5年前のデータのみを提示しているため、「虚偽の報告」となっていると云々ざるをえません。

『東京都環境影響評価技術指針』では、「現況調査に当たっては、可能な限り最新のデータを得るように努めるものとする」と明記されています（参照：技術指針16頁）。

表2（仮称）神宮外苑地区市街地再開発事業、環境影響評価書（資料編）毎木調査結果表に説明を記載





(2) 環境影響評価書における樹木調査の内容について

環境影響評価書における樹木調査は、以下の内容について実施されています。

- ・目的：既存樹の活力度や障害等、外的診断を行い、保存や移植の可否について調査。
- ・方法：外観による樹勢、樹形、問題となる欠損・腐朽の有無、木槌による幹空洞部診断。枝の伸長量、大枝・幹の欠損・傷、梢端の枯損、枝葉の密度。これらの測定項目を1～4で評価し、平均により活力度の評価が行われています(表3, 4参照)。

表3 環境影響評価書における樹木の活力度測定項目

活力度測定項目					
樹勢	1	2	3	4	
		旺盛な生育状態を示し被書が全く見られない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状態が極めて劣悪である
樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊している	ほとんど完全に崩壊
枝伸長量	正常	幾分少ないがそれほど目立たない	枝は短小となり細い	枝は極端に短小	
大枝・幹の欠損・傷	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり目立つ	著しく目立つ。傷からの腐朽も著しい	
梢端の枯損	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり多い	著しく多い	
枝葉の密度	正常、枝及び葉の密度バランスがとれている	普通、1に比してやや劣る	やや疎	枯れ枝が多く葉の発生がすくない。密度が著しく疎	

表4 活力度の評価

評価	A	B	C	D
評点	1.00～1.75	1.76～2.50	2.51～3.25	3.26～4.00
状態	正常なもの	普通、正常に近い	悪化のかなり進んだもの	顕著に悪化の進んでいるもの

日本イコモスの調査は、公道からの外観の調査であり、詳細な活力度調査は、現在、事業者が行っている調査により明らかにされるものと考えます。この調査は、喫緊の課題である衰退が著しいイチョウの状況をわかりやすく伝えることが目的であるため、前述した通り、① 全体：樹勢、樹形、枝の伸長量、幹や大枝の欠損や腐朽状況、緑量、葉色、葉の大きさ、葉の密度、② 先端部の状況を精査、③ 地上部の利用状況、④ 周辺環境の影響、⑤ 保全に向けた今後の課題について実施しました。



(3) 衰退の著しいイチョウ

- 1) 青山口から絵画館にむかって一番左側の列 (A列) 11番のイチョウ
 (環境影響評価書毎木調査番号 Bエリア 29番)

①環境影響評価書における樹木の活力度 (調査日 2018年12月～2019年1月)

表5 A-11番イチョウの環境影響評価書における活力度

番号 (調査日)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	活力度評価
A-11 (毎木調査番号 B-29) 2018年12月～2019年1月	23.0	283	10.0	A

表6 活力度評価 (A-11番イチョウ) 2018年12月～2019年1月調査

活力度測定項目						
樹勢	1	2	3	4		項目別活力度
	旺盛な生育状態を示し被害が全く見られない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状態が極めて劣悪である	ほとんど枯死	
樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊している	ほとんど完全に崩壊	1.5
枝伸長さ	正常	幾分少ないがそれほど目立たない	枝は短小となり細い	枝は極端に短小		1.5
大枝・幹の欠損・傷	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり目立つ	著しく目立つ。傷からの腐朽も著しい		2.0
梢端の枯損	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり多い	著しく多い		1.0
枝葉の密度	正常、枝及び葉の密度バランスがとれている	普通、1に比してやや劣る	やや疎	枯れ枝が多く葉の発生がすくない。密度が著しく疎		2.0



平均評点
 1.67
 活力度
 A

この調査は、樹木医により行われたものであり、正確な調査内容であると考えます。
 しかしながら、2019年以降、次に示すように、急激なイチョウの衰退が始まっています。
 以下、2022年11月～2023年11月までの記録を詳細に示します。



② A-11 番イチョウの 2022 年 11 月～2023 年 11 月までの調査

a. 全体：樹勢、樹形、枝の伸長量、緑量、葉色、葉の大きさ、葉の密度

写真3は、2022年11月11日撮影のイチョウ並木です。黄葉がピークを迎えた時期に、樹木の上部の枯損が顕著となっているのが、A-11番のイチョウです。写真4は、1年後の2023年11月24日撮影のA-11番イチョウです。本年は、猛暑日が観測史上、最も多かった年であり、イチョウの黄葉のピークも、11月下旬でした。A-11番のイチョウの枯損は、上部から、更に下部へと拡大していることがわかります。

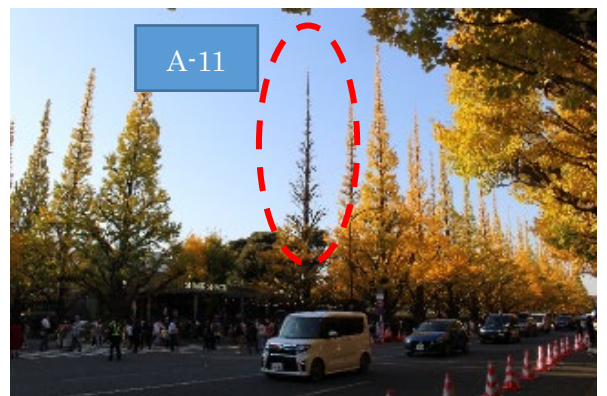


写真3 A-11 イチョウ (2022年11月11日) 写真4 A-11 イチョウ (2023年11月24日)

b. 先端部(梢)の状況の精査

(2022年11月～2023年11月)

A-11番のイチョウの先端部は、すでに2022年8月ごろには、落葉しており、目視で判断できる状況でした。

写真5は、2022年11月の状況で、先端は灰色となり、幹の中ほどまで、落葉しました。

写真6に見られるように、2023年は、新芽はでたものの、全く成長することはできず、衰退が更に進んでいることがわかります。



写真5 A-11のイチョウの先端部
2022年11月11日 撮影



以下に示す写真6は、A-11番イチョウの2023年4月～11月までの梢の変化を記録したものです。4月12日には芽生えが観測されましたが、6月には新芽が成長していく力はなく、上端から落葉が始まっています。その後、記録的な猛暑日が続き、葉が成長していくことは観察されず、衰退は、昨年よりも下部へと、更に拡大しました。

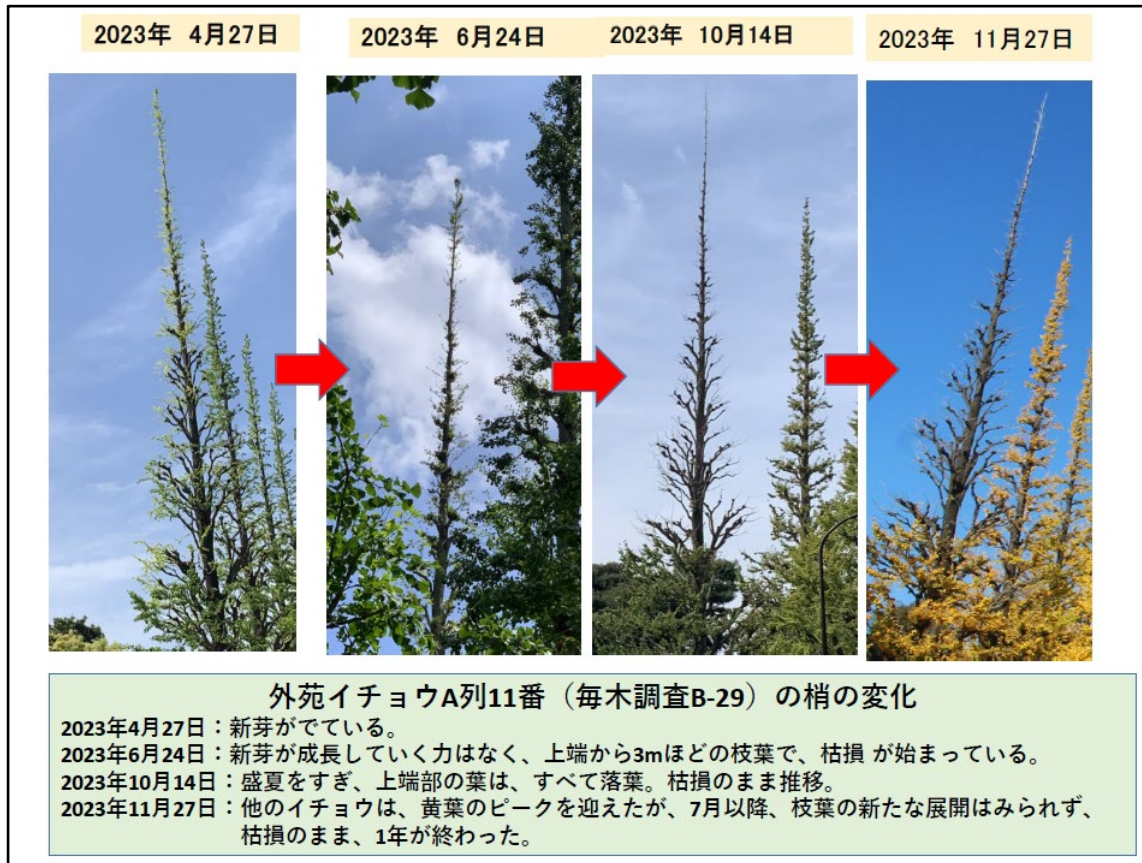


写真6 A-11番イチョウの先端部の2023年4月～11月までの状況

c.地上部の状況

A-11番イチョウは、隣接するレストランのテラス席として利用されており、イチョウの根元まで舗装が行われています。植栽帯は1.6mほどしかありません。盛土されており、雨水は道路側に排水されるため、樹木に涵養される雨水は極めて少量となっています（写真7、8）。



写真7 テラス席の利用

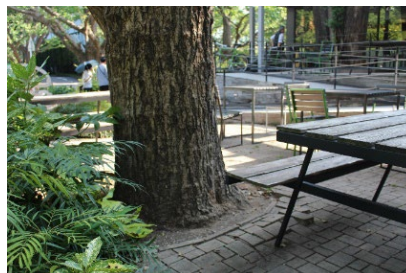


写真8 A-11の根元の舗装



d. 根の状況

写真9は、A-11 番イチョウと、車道側の B-11 番イチョウの根元を比較したものです。A-11 番イチョウは、根元から約 30 cm の盛り土が行われており、かつ雨水が入りにくい状況となっているため、土壌に空洞がなくなっており、根が酸欠状況となっています。B-11 番イチョウは、都道に面しているため、土壌が浅く、根張りが地上に露出していますが、根周りは舗装されておらず、地被植物等で保護されているため、生育状況は良好です。

A列11番のイチョウの根元と、B列11番イチョウの根元の相違



A列11番イチョウの根元

盛り土により、根元から約30cmの位置まで、盛り土が行われている。イチョウの根の呼吸が阻害されている。



B列11番イチョウの根元

都道沿いのイチョウの根元。盛り土は行われていないため、地表部で、根張りを確認することができる。道路舗装の影響を受け、根が浅く広がっていることが想定される。

写真9 A-11 イチョウと、隣接する B-11 イチョウの根回りの比較

③ まとめ： A-11 番イチョウの現状

環境影響評価書（2023年1月20日）に記載されたA-11番イチョウの評価は、

- ・樹勢は、「旺盛な生育状況を示し被害が全くみられない、目立たない」という「1.5」の評価でしたが、実際は、「生育状況が極めて劣悪」となっています。
- ・樹形は、「自然樹形を保っている、若干の乱れはあるが自然樹形に近い」という「1.5」の評価でしたが、実際は「自然樹形がほぼ崩壊している」状況となっています。
- ・梢端の枯損は「なし」という「1.0」の評価でしたが、上述したように急速に衰退が進んでいます。

このように2018年12月～2019年1月の調査は正しいものであったと判断しますが、2022年以降、急激に衰退が進んでおり、審議会からの再三の要請、追加調査に答えず、事業者が古いデータに固執されたことは、重大な「虚偽の報告」と判断されます。



2) 青山口から絵画館にむかって一番左側の列 (A列) 16番のイチョウ
 (環境影響評価書毎木調査番号 Bエリア 34番)

①環境影響評価書における樹木の活力度 (調査日 2018年12月～2019年1月)

表7 A-16番イチョウの環境影響評価書における活力度

番号 (調査日)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	活力度評価
A-16 (毎木調査番号 B-34) 2018年12月～2019年1月	23.0	228	10.0	A

表8 活力度評価 (A-16番イチョウ) 2018年12月～2019年1月調査

活力度測定項目						
樹勢	1	2	3	4	項目別活力度	
	旺盛な生育状態を示し被害が全く見られない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状態が極めて劣悪である		ほとんど枯死
樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊している	ほとんど完全に崩壊	1.5
枝伸長量	正常	幾分少ないがそれほど目立たない	枝は短小となり細い	枝は極端に短小		2.0
大枝・幹の欠損・傷	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり目立つ	著しく目立つ。傷からの腐朽も著しい		2.0
梢端の枯損	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり多い	著しく多い		1.0
枝葉の密度	正常、枝及び葉の密度バランスがとれている	普通、1に比してやや劣る	やや疎	枯れ枝が多く葉の発生がすくない。密度が著しく疎		2.0



平均評点
 1.67
 活力度
 A

この調査は、樹木医により行われたものであり、正確な調査内容であると考えます。
 しかしながら、2019年以降、次に示すように、急激なイチョウの衰退が始まっています。
 以下、2022年11月～2023年11月までの記録を詳細に示します。



② A-16 番イチョウの 2022 年 11 月～2023 年 11 月までの調査

a. 全体：樹勢、樹形、枝の伸長量、緑量、葉色、葉の大きさ、葉の密度

写真 10 は、2022 年 11 月 11 日撮影の A-16 番イチョウです。先端部は、枯損はなく成長していましたが、中間部の枝・葉が茶色になっており、要注意であると判断いたしました。写真 11 は、1 年後の 2023 年 11 月 24 日撮影の同じイチョウです。中間部だけではなく、梢から下部まで、急速に衰退していることがわかります。夏季には灌水が行われましたが、ついに回復することはなく、冬季となりました。

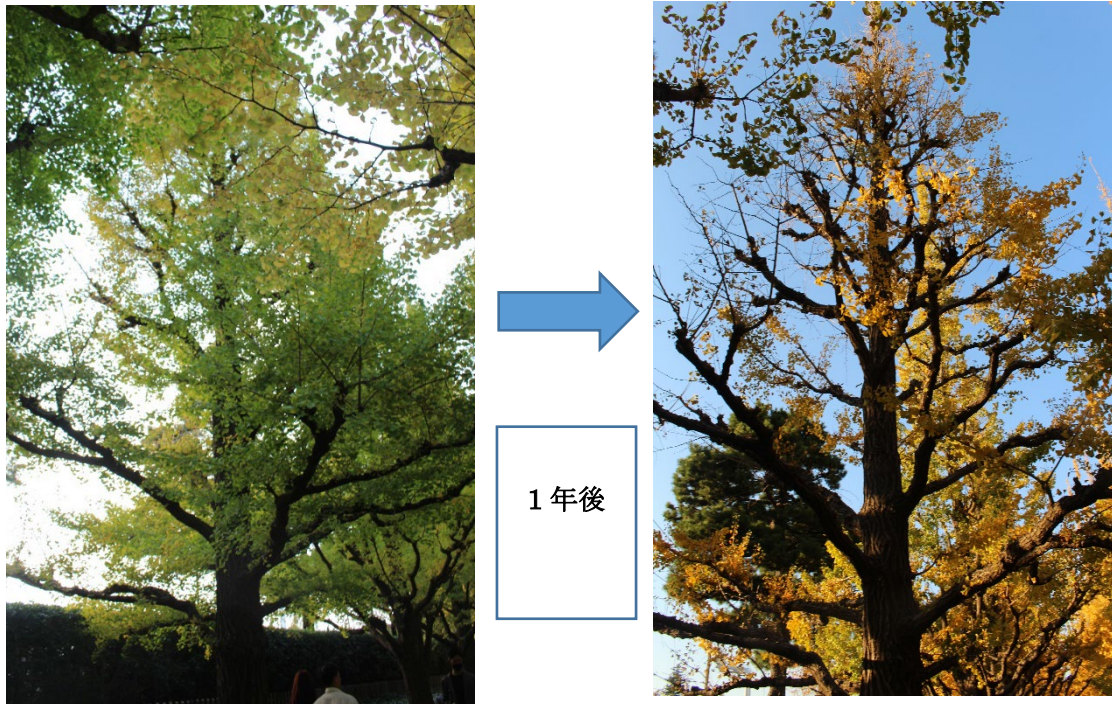


写真 10 A-16 イチョウ 2022 年 11 月 11 日 写真 11 A-16 イチョウ 2023 年 11 月 24 日

b. 先端部（梢）の状況（2022 年 11 月～2023 年 11 月）

2022 年 11 月には正常だった先端部（写真 12）が、2023 年 11 月には茶褐色となっています（写真 13）。



写真 12 A-16 イチョウ 2022 年 11 月 11 日 写真 13 A-16 イチョウ 2023 年 11 月 24 日



ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

c. 枝・葉の状況 (2022年11月～2023年11月)

A-16の衰退は、既に2023年6月には顕著となっており、先端部から中央部の大枝の枯損、葉の落葉が見られました(写真14, 15)。8月には、すでに茶褐色に落葉し、緑一色の並木で異様な光景となりました(写真16)。



写真14 A-16 イチョウ 2023年6月27日 写真15 A-16 イチョウ 2023年6月27日
写真16 A-16 イチョウ 2023年8月19日



写真17 大枝の枯損 2023年11月24日 写真18 根元の状況 2023年11月24日
d. 根元の状況

写真17は、A-16番イチョウの根元の状況です。根張りがほとんど見られないことから、土壌が深く、根が地中深く伸びていることが想定されます。

③まとめ：A-16番イチョウの現状

環境影響評価書(2023年1月20日)に記載されたA-16番イチョウの評価

- ・樹勢は、「旺盛な生育状況を示し被害が全くみられない、目立たない」という「1.5」の評価でしたが、実際は、「生育状況が極めて劣悪」となっています。
- ・「樹形」は、「自然樹形を保っている、若干の乱れはあるが自然樹形に近い」という「1.5」の評価でしたが、実際は「自然樹形がほぼ崩壊している」状況となっています。
- ・大枝の欠損は「あまり目立たない」という「2.0」の評価でしたが著しく目立っています。

このように2018年12月～2019年1月の調査は正しいものであったと判断しますが、2022年以降、急激な衰退が進んでいます。事業者におかれましては、審議会からの再三の要請及び2022年春には追加調査も行っているにも関わらず、5年前のデータを評価書に提出したことは、重大な「虚偽の報告」に相当すると判断されるため、審議会におかれましては、正しいデータのもと、再審を行うべきと要請いたします。



3) 青山口から絵画館にむかって一番左側の列 (A列) 18番のイチョウ
 (環境影響評価書毎木調査番号 Bエリア 36番)

①環境影響評価書における樹木の活力度 (調査日 2018年12月～2019年1月)

表9 A-18番イチョウの環境影響評価書における活力度

番号 (調査日)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	活力度評価
A-18 (毎木調査番号 B-36) 2018年12月～2019年1月	23.0	270	10.0	A

表10 活力度評価 (A-18番イチョウ) 2018年12月～2019年1月調査

活力度測定項目						
樹勢	1	2	3	4		項目別活力度
	旺盛な生育状態を示し被害が全く見られない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状態が極めて劣悪である	ほとんど枯死	
樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊している	ほとんど完全に崩壊	1.5
枝伸長さ	正常	幾分少ないがそれほど目立たない	枝は短小となり細い	枝は極端に短小		
大枝・幹の欠損・傷	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり目立つ	著しく目立つ。傷からの腐朽も著しい		2.0
梢端の枯損	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり多い	著しく多い		
枝葉の密度	正常、枝及び葉の密度バランスがとれている	普通、1に比してやや劣る	やや疎	枯れ枝が多く葉の発生がすくない。密度が著しく疎		2.0



平均評点
 1.67
 活力度
 A

この調査は、樹木医により行われたものであり、正確な調査内容であると考えます。
 しかしながら、2019年以降、次に示すように、急激なイチョウの衰退が始まっています。
 以下、2022年11月～2023年11月までの記録を詳細に示します。



② A-18 番イチョウの 2022 年 11 月～2023 年 11 月までの調査

a. 全体：樹勢、樹形、枝の伸長量、緑量、葉色、葉の大きさ、葉の密度

写真 19 は、2022 年 11 月 11 日撮影の A-18 番イチョウです。先端部は、枯損はなく成長していましたが、中間部の枝・葉が茶色になっており、要注意であると判断いたしました。写真 20 は、1 年後の 2023 年 11 月 24 日撮影の同じイチョウです。中間部だけではなく、梢から下部まで、急速に衰退していることがわかります。夏季には灌水が行われましたが、ついに回復することはなく、冬季となりました。

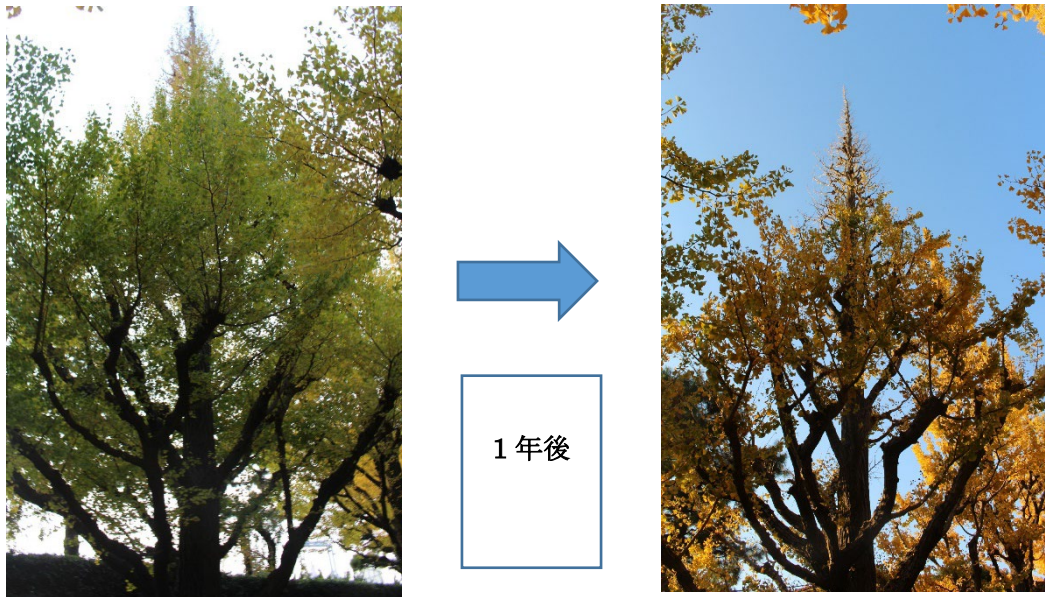


写真 19 A-18 イチョウ 2022 年 11 月 11 日 写真 20 A-18 イチョウ 2023 年 11 月 24 日

b. 先端部（梢）の状況（2022 年 11 月～2023 年 11 月）

2022 年 11 月には、先端部（写真 21）では落葉し幹は灰色になっています。1 年後、衰退は下部へと拡大していることがわかります（写真 22）。



写真 21 A-18 イチョウ 2022 年 11 月 11 日 写真 22 A-18 イチョウ 2023 年 11 月 24 日



c. 枝・葉、根元の状況（2022年11月～2023年11月）

A-18の衰退は、既に2023年6月には顕著となっており、8月には先端部が茶褐色となりました（写真23）。灌水が行われましたが（写真24）、回復することはありませんでした。イチョウの根元は、根張りがほとんど見られないことから、土壌が深く、根が地中深く伸びていることが想定されます。



写真23 A-18 イチョウ 2023年8月19日 写真24 A-18 イチョウ 2023年8月19日

③まとめ：A-18 番イチョウの現状

環境影響評価書（2023年1月20日）に記載されたA-16番イチョウの評価

- ・樹勢は、「旺盛な生育状況を示し被害が全くみられない、目立たない」という「1.5」の評価でしたが、実際は、「生育状況に異常」が明らかに認められます。
- ・「樹形」は、「自然樹形を保っている、若干の乱れはあるが自然樹形に近い」という「1.5」の評価でしたが、実際は「自然樹形の崩壊が進んでいます。
- ・梢端の枯損は、「なし」という「1.0」の評価でしたが、衰退は深刻な状況となっています。

このように2018年12月～2019年1月の調査は正しいものであったと判断しますが、2022年以降、急激な衰退が進んでいます。事業者におかれましては、危機的状況に対し、灌水等も行っておられ、状況を把握されていたにもかかわらず、審議会からの再三の要請、及び2022年春には追加調査を行う時間もあつたにも関わらず、5年前のデータを評価書に提出したことは、重大な「虚偽の報告」に相当すると判断されます。



4) 青山口から絵画館にむかって一番左側の列 (A列) 22番のイチョウ
 (環境影響評価書毎木調査番号 Bエリア 40番)

①環境影響評価書における樹木の活力度 (調査日 2018年12月~2019年1月)

表1.1 A-22番イチョウの環境影響評価書における活力度

番号 (調査日)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	活力度評価
A-22 (毎木調査番号 B-36) 2018年12月~2019年1月	24.0	215	10.0	A

表1.2 活力度評価 (A-22番イチョウ) 2018年12月~2019年1月調査

活力度測定項目						
樹勢	1	2	3	4		項目別活力度
	旺盛な生育状態を示し被害が全く見られない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状態が極めて劣悪である	ほとんど枯死	
樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊している	ほとんど完全に崩壊	1.5
枝伸長さ	正常	幾分少ないがそれほど目立たない	枝は短小となり細い	枝は極端に短小		1.5
大枝・幹の欠損・傷	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり目立つ	著しく目立つ。傷からの腐朽も著しい		2.0
梢端の枯損	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり多い	著しく多い		1.0
枝葉の密度	正常、枝及び葉の密度バランスがとれている	普通、1に比してやや劣る	やや疎	枯れ枝が多く葉の発生がすくない。密度が著しく疎		2.0



平均評点
 1.59
 活力度
 A

この調査は、樹木医により行われたものであり、正確な調査内容であると考えます。
 しかしながら、2019年以降、次に示すように、急激なイチョウの衰退が始まっています。
 以下、2022年11月~2023年11月までの記録を詳細に示します。



② A-22 番イチョウの 2022 年 11 月～2023 年 11 月までの調査

a. 全体：樹勢、樹形、枝の伸長量、緑量、葉色、葉の大きさ、葉の密度

写真 25 は、2022 年 11 月 11 日撮影の A-22 番イチョウです。大枝の枯損が顕著であり、衰退が、樹木全体に広がっています。水の供給が十分でないことが原因の一つであると判断していましたが、2023 年の猛暑日の増加は、樹木の生育に更に大きな影響を与えることとなってしまいました。写真 26 は、1 年後の 2023 年 7 月 27 日の状況です。2023 年春に剪定が行われたこともあり、緑量は極端に減少しており、枯れ枝が多数、出現しています。樹木が弱っている場合は、剪定の手法を慎重に考えるべきであり、検証が必要です。



1 年後
2023 年 7 月
27 日には、既に先端部は茶褐色となり、中ほどまで及んでおり、8 月には落葉しました。



写真 25 A-22 イチョウ 2022 年 11 月 11 日 写真 26 A-22 イチョウ 2023 年 7 月 27 日

b. 先端部（梢）の状況（2022 年 11 月～2023 年 11 月）

2022 年 11 月には先端部（写真 27）では落葉し幹は灰色になっています。1 年後、衰退は下部へと拡大し、全体に広がっていることがわかります（写真 28）。

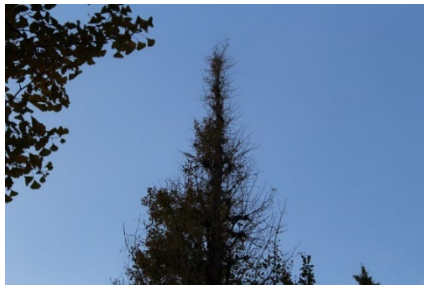


写真 27 A-22 イチョウ 2022 年 11 月 11 日 写真 28 A-22 イチョウ 2023 年 11 月 24 日



c. 枝・葉、根元の状況（2022年11月～2023年11月）

A-22の衰退は、イチョウ並木のなかでも、際立っており、早急に適切な回復の施策を導入する必要があります（写真29,30）。市街地再開発事業では、A-22番イチョウの位置が、中央広場への入り口となるため、人流が集中し踏圧などの環境負荷が増大するため、「未来永劫、イチョウ並木を保全する」という原則を貫くことは、困難と考えます。根張りが少ないため、根は土壌深く発達していると想定されます（写真31）。



写真29 A-22 イチョウ 2023年11月24日 写真30 A-22 イチョウ 枯損した大枝
写真31 A-22 根元への灌水 2023年7月27日

③まとめ：A-22番イチョウの現状

環境影響評価書（2023年1月20日）に記載されたA-22番イチョウの評価

- ・樹勢は、「旺盛な生育状況を示し被害が全くみられない、目立たない」という「1.5」の評価でしたが、実際は、「生育状況に異常」が明らかに認められます。
- ・「樹形」は、「自然樹形を保っている、若干の乱れはあるが自然樹形に近い」という「1.5」の評価でしたが、実際は「自然樹形の崩壊が進んでいます」。
- ・梢端の枯損は、「なし」という「1.0」の評価でしたが、衰退は深刻な状況となっています。

このように2018年12月～2019年1月の調査は正しいものであったと判断しますが、2022年以降、急激な衰退が進んでいます。事業者におかれましては、危機的状況に対し、灌水等も行っておられ、状況を把握されていたにもかかわらず、審議会からの再三の要請、及び2022年春には追加調査を行う時間もあつたにも関わらず、5年前のデータを評価書に提出したことは、重大な「虚偽の報告」に相当すると判断されます。イチョウ並木の中で、ひととき衰退の状況がわかるイチョウですので、早急な対策と再開発計画の撤回が必要です。



(4) 衰退の兆候がみられ、慎重な経過観察が必要なイチョウ

1) 青山口から絵画館にむかって一番左側の列 (A 列) 12 番のイチョウ

表 13 A-12 番のイチョウ

並木 A 列 (青山口から絵画館 方向 左手より)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
A-12 毎木調査番号 30	23.0	269	10.0	2023年は、健全であったが、昨年と比べて、樹勢が衰えている。慎重な対応が必要（盛土部分の除去等）



- ・ 樹形：良好、樹勢：良好、
- ・ 先端部：良好
- ・ A-11と同様に、レストランのテラス席で、盛土が行われているが、幹の半分のエリアのみであり、反対側は、盛土は行われていないため、雨水の供給があり、樹勢を維持している。





撮影 2023年 11月 24日

著しく衰退が進んでいる A-11 番のイチョウに隣接するイチョウです。A-11 と同じく、レストランのテラス席として盛土が行われていますが、樹木の半分は、既存の地表レベルに繋がっているため、雨水や地下水の持続的な供給が可能となっており、生育状況は良好です。また、この樹木の背後には、テニスクラブ沿いに良好な樹林帯が保全されており、この樹木がイチョウの環境を守っていると考えられます。

しかしながら、昨年と比較すると樹勢は衰えてきており、今後、慎重な経過観察が必要です。再開発に伴い、背後の樹林地は、伐採され野球場となるため、根茎調査に基づく、慎重な保全施策が必要です。

盛土は、速やかに撤去し、樹勢を回復する措置が必要と考えます。



2) 青山口から絵画館にむかって一番左側の列 (A 列) 17 番のイチョウ

表 14 A-17 番のイチョウ

並木 A 列目 (青山口から絵画館 方向 左手より)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
A-17 毎木調査番号 35 2023年11月24日撮影	23.0	212	10.0	2022年より樹勢の衰退がすすんでいる。慎重な経過観察が必要



- ・ 樹木の中腹部の枝先が茶褐色になっている。
- ・ 枝への水分供給量が減少していることに起因していると考えられる。
- ・ 盛土は行われておらず、根張りも少ないことから、根が土中に深く張っていると推察される。







撮影 2023年11月24日

このイチョウの両側 (A-16,A-18) のイチョウは、急速に衰退しており、大枝、梢、夏季における落葉等が生じていることは、詳細な説明を行いました。基本的にほとんど同じ条件の場所に立地しているため、同様の現象が生じつつあります。

梢の先端等は、健在ですが、大枝の枯損、落葉が生じています。将来は、至近距離に野球場が建設されることになり、生育環境は一層、悪化の道をたどります。また、葉張りは、現在一律に10mに抑えられていますが、樹木の生長に伴い、葉張りは必要となりますので、「未来永劫」イチョウを健全に維持していくことは、極めて困難な状況にあります。



3) 青山口から絵画館にむかって一番左側の列 (A 列) 20 番のイチョウ

表 15 A-20 番のイチョウ

並木 A 列目 (青山口から絵画館 方向 左手より)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
A-20 毎木調査番号 38 2023年11月24日 撮影	24.0	241	10.0	2022年よりも樹勢が衰えており、慎重な対応が必要。
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;">  </div> <div style="width: 40%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 樹形：良好 下の葉が小さい。 ・ 樹幹の下の枝の、伸長量が少ない。 ・ 端枝が多い。正常な枝が伸びていない。 ・ 根張りが少なく、根は地中深く、発達しているものと考えられる。 </div> <div style="width: 25%;">   </div> </div>				

撮影 2023年11月24日

このイチョウに隣接する、A-16、A-17、A-18、A-22 のイチョウは、急速に衰退しており、大枝、梢、慎重な経過観察と対応が必要となっています。A-20 のイチョウも、現時点では、梢先端の衰退はありませんが、特に下の枝の伸長量が少なく、葉の大きさも小さく端枝が多く、正常な枝が伸びていません。

再開発により、隣接地の直近の位置に野球場が建設されるため、40mの基礎杭が打ちこまれば、地下水の供給が絶たれ、現在でも、十分な雨水が供給されず、なんとか命を繋いでいる環境の悪化は、避けられません。野球場ではなく、「100年の命」を繋いでいくための計画の撤廃が必要です。




4) 青山口から絵画館にむかって左から2列目 (B列) 26番のイチョウ

表 16 B-26番のイチョウ

並木 B 列 青山口から絵画館 方向をのぞむ 左手より2列目	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
B-26 毎木調査 53	24.0	194	10.0	2022年の調査では健全a+であったが、2023年11月には、樹林全体の衰退が進んだ。要検討。



- ・ 樹勢：良好
- ・ 樹形：良好
- ・ 先端部：良好






2022年11月11日 撮影



表16は、2022年11月11日に撮影した、B列18番のイチョウで、概ね良好な状態でした。

これに対して、写真32は、2023年11月に撮影したものです。春に剪定が行われていますが、隣接するイチョウの落葉と比べて、時期が早まり、ほとんど葉がない状況となっていました。大きなストレスにみまわれているものと想定されます。慎重な経過観察が必要です。都道は、速やかに歩行者のための並木道とすべきです。

写真32 B-26イチョウ 2023年11月24日撮影



(5) 樹形の変容が顕著となっているイチョウ

1) 青山口から絵画館にむかって一番左側の列 (A 列) 29 番のイチョウ

神宮外苑のイチョウ並木は、円錐形をしており、樹齢 113 年となりますので、その維持が大きな問題です。現時点で樹形を維持することが困難となっているイチョウは、これまでに述べてきたもの以外に、A-29 番 (写真 3 3、3 4) と C-13 番 (写真 3 5、3 6) があります。

衰退しているイチョウを含めると、その総数は、現時点でも、10 本となります。イチョウ並木を植えられた折下吉延先生は、植栽にあたって、

「30 年～40 年はこれでよかろう」『折下吉延先生業績録』

とっておられ、113 歳のイチョウをどのように維持継承していくかは、樹形の問題も含めて、十分な検討が必要です。



写真 3 3、3 4 A-29 のイチョウ：先端が弓なりにになっている。2023 年 11 月 24 日

2) 青山口から絵画館にむかって左から 3 列目 (C 列) 13 番のイチョウ

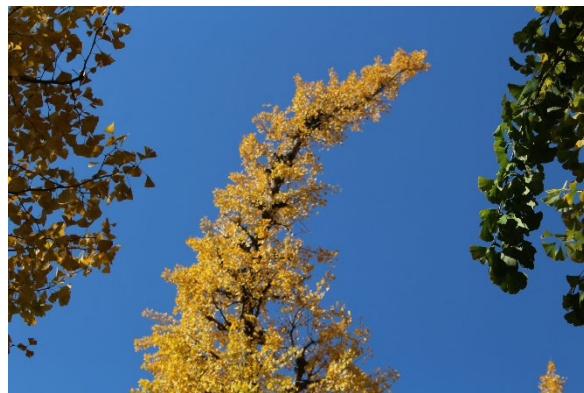


写真 3 5、3 6 C-13 のイチョウ：先端が弓なりにになっている。2023 年 11 月 24 日



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

ちなみに、写真 37 は、新宿御苑の旧玉川上水沿いに植えられた火防樹（火災の延焼を防ぐ樹木）で、放射第五号線のトンネル工事で、樹木を回避する設計が行われ、江戸期からのイチョウ（樹齢、約 300 年以上）が保存されているものです。外苑のイチョウは、わずか 113 歳であり、今後の成長を十分に考慮する必要があります。



写真 37 新宿御苑のイチョウ 2023 年 11 月 30 日（自然樹形）

写真 38 は、関東大震災後、植栽された東大安田講堂前のイチョウ並木で、外苑のイチョウ並木の、10 年ほど後に整備された並木です。時々、剪定は行われていますが、樹冠が歩道をおおっており、緑のトンネルとなっています。ヴィスタの焦点にある安田講堂は、かすかに見えるだけとなっており、先端部の衰退は生じていないことがわかります。



写真 38 東京大学安田講堂前のイチョウ並木（2023 年 11 月 30 日）



3. 環境影響評価書では「移植不可能」と判断されている港区道 1107 号線（秩父宮ラグビー場入口）のイチョウについて

(1) 港区道 1107 号線（秩父宮ラグビー場エントランスの並木）のイチョウの現状と「移植検討」の内容の公開の要請

4 列のイチョウ並木の青山口から、左手に分岐する 2 列 18 本のイチョウ並木は、明治神宮が掲げておられる碑文にも明示されているように、折下吉延先生が育てられた同じ苗木から成長したもので「兄弟木」と言われています。

戦前は、女子学習院の正門に至る並木道で、正門前には、イチョウに加え、天然記念物として名高かったヒトツバタゴやスダジイが植栽され風格のある景観を形づくっていました。今般の市街地再開発事業により、当該地は、神宮球場として計画されているため、イチョウ並木は存続することが許されない計画となっており、当初は、すべて「伐採」でしたが、世論の大きな反対運動の展開から、現在は「移植検討」とされ、中央広場への移植が計画されています。

しかしながら、2023 年 2 月に施行認可がおりましたが、「移植検討」の内容は、全く開示されておりません。これは、本来、検討結果が開示され、環境影響評価審議会で検討を行うべき重要課題であり、決して「事後報告」として報告される課題ではありません。

日本イコモス国内委員会は、環境影響評価書（2023 年 1 月 20 日）では、すべて「移植不可」と診断されている 18 本のイチョウについて、どのような検討が行われているのか、緊急に情報の開示が必要であると考えます。イチョウは、均一ではなく、1 本 1 本異なっています。このため、個別のデータシートを作成しておりますので、現状を踏まえて「移植検討」の内容について、事業者からの報告を公表していただきたく、お願い申し上げます。また、移植の具体的方法、仮植場所、中央広場における最終的計画図を判読可能な縮尺で御提示ください。環境影響評価書に記載されている計画図は、弓なりのイチョウ並木の大きさが過少に描かれており、隣接する移植木と競合する配置となっております。判読可能な図面を提示されますことは、環境影響評価書の基本であると存じます。

なお、18 本のイチョウ並木の番号は、毎木調査の番号も記載いたしますが、図 5 の通り E 列 1～18 番としてデータシートをまとめました（2022 年 11 月調査）。

恐縮ですが、事業者からの御回答は、2024 年 1 月 20 日までお願い申し上げます。



図 5 港区道 1107 号線のイチョウ並木の番号



ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

なお、環境影響評価書（2023年1月20日）には、18本のイチョウは、すべて「移植検討」と記載されていますが、データシートにおける樹木医の診断の項は、「移植不可」となっています。現時点で、公開されている内容は、以下の2点のみです。

- ①「公園まちづくり制度提案資料」2020年2月では、「港区道1107号線沿いの銀杏の移植は困難であると考えられる」（112頁）という検討内容となっています。
- ②環境影響評価書 337頁では、「伐採」から「移植可」になった樹木の判断根拠について記載されているが、「移植検討」については、全く記載されていません。

□港区道1107号線沿いの銀杏の移植検討



写真①



写真②

・下記の理由により適切な根鉢確保が難しいため、港区道1107号線沿いの銀杏の移植は困難であると考えられる。

① 植栽帯方向の根系の状況

根系は根の伸長に適した土壌基盤がある植栽帯に沿って主に伸びていると考えられる。根元の肥大(写真①)から見ても、植栽帯に根が集中し、長く太く伸びている可能性が高い。

② 歩車道側の根系(写真②)の状況

歩道側及び段差のある車道側では、舗装下の碎石層等の基盤が根の伸長可能硬度を超えていると想定される。

③ 細根の適切な確保について

根回しを根系に合わせ、鉢規格、形状も可能な範囲で柔軟に行った場合においても、現状の樹形、樹体を維持できる細根成長が期待できるか不明である。そのため、移植前の根回し時に枯れる場合や、移植活着しても樹体全てが維持できず、樹形の一部枯死も起こり得る。

引用：「公園まちづくり制度提案資料」2020年2月 112頁



1) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 1 番のイチョウ

表 17 E-1 番のイチョウ (毎木調査番号 B-11)

並木 E 列 (秩父宮ラグビー場へのアプローチ)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
E-1 毎木調査 II	20.0	305	10.0	b 良好

- 秩父宮ラグビー場へのエントランスとなっている2列の銀杏並木の入り口に位置する。事業者計画では移植の対象樹木となっている。
- 大枝に腐朽がみられ、全体の生理的バランスが崩れている。
- 樹木の先端が、痛んでいる。これは、根からの水分の吸収が不均衡になっているため生じている現象である。
- 移植にあたっては、太い枝を切らないと無理である。移植先がどこかが鍵となる。
- 方位に合わせて、現在の樹形が100年の歳月をかけて形成された。
- 大きく樹木のバランスを損なわないためには、場内移植で、「たて引き」が必要である。






環境影響評価書では、活力度は A となっています。移植は「不可」。理由は、「幅 1.5m の狭い植栽帯に根系充満。根鉢確保困難」と記載されています。評価書提出より、1年が経過していますので、現時点での検討内容の公表をお願いいたします。(御回答は 2024 年 1 月 20 日までに、お願いいたします。)

御回答記入欄 (E-1, 毎木調査番号 B-11)



2) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 2 番のイチョウ

表 18 E-2 番のイチョウ (毎木調査番号 B-12)

並木 E 列 (秩父宮ラグビー場へのアプローチ)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
E-2 事業名調査番号 B-12	20.0	232	10.0	a+ 健全



- ・ 外苑青山駐車場の入り口に位置する。
- ・ 樹形：良好、 樹勢：良好
- ・ 雨当たりがよいので、光合成が活発に行われている。しかし、水分の供給量が、少ないため、黄葉が早くなっている。
- ・ 水分が十分に供給されていれば、黄葉は遅くなるはず。
- ・ 移植にあたっては、大枝を伐採する必要があり、樹形は大きく変化する。






環境影響評価書では、活力度は A となっています。移植は「不可」。理由は、「幅 1.5m の狭い植栽帯に根系充満。根鉢確保困難」と記載されています。評価書提出より、1 年が経過していますので、現時点での検討内容の公表をお願いいたします。(御回答は 204 年 1 月 20 日までに、お願いいたします。)

御回答記入欄 (E-2,毎木調査番号 B-12)



3) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 3 番のイチョウ

表 19 E-3 番のイチョウ (毎木調査番号 B-13)

並木 E 列 (秩父宮ラグビー場へのアプローチ)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
E-3 事業者調査番号 B-13	20.0	241	10.0	a+ 健全



- ・ 樹形：良好
- ・ 樹勢：良好
- ・ 梢先端：良好







環境影響評価書では、活力度は A となっています。移植は「不可」。理由は、「幅 1.5m の狭い植栽帯に根系充満。」と記載されています。評価書提出より、1 年が経過していますので、現時点での検討内容の公表をお願いいたします。(御回答は 2024 年 1 月 20 日までに、お願いいたします。)

御回答記入欄 (E-3, 毎木調査番号 B-13)



4) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 4 番のイチョウ

表 20 E-4 番のイチョウ (毎木調査番号 B-14)

並木 E 列 (秩父宮ラグビー場 へのアプローチ)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
E-4 事業者調査番号 14	20.0	260	10.0	a+ 健全



- ・ 樹勢幹：良好
- ・ 駐車場側が剪定されており
樹形がバランスを欠いて
いる。
- ・ 枝の伸長量、全体にすく
ない







環境影響評価書では、活力度は A となっています。移植は「不可」。理由は、「幅 1.5m の狭い植栽帯に根系充満。」と記載されています。評価書提出より、1 年が経過していますので、現時点での検討内容の公表をお願いいたします。(御回答は 2024 年 1 月 20 日までに、お願いいたします。)

御回答記入欄 (E-4, 毎木調査番号 B-14)



5) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 5 番のイチョウ

表 21 E-5 番のイチョウ (毎木調査番号 B-15)

並木 E 列 (秩父宮ラグビー場 へのアプローチ)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
E-5 事業者調査番号 15	20.0	263	10.0	a+ 健全

- ・ 樹形、樹勢、良好
- ・ 梢 良好
- ・ 駐車場側、剪定による樹形のバランスが崩れている。
- ・ 枝に、乳があることが特色

環境影響評価書では、活力度は A となっています。移植は「不可」。理由は、「幅 1.5m の狭い植栽帯に根系充満。」と記載されています。評価書提出より、1 年が経過していますので、現時点での検討内容の公表をお願いいたします。(御回答は 2024 年 1 月 20 日までに、お願いいたします。)

御回答記入欄 (E-5,毎木調査番号 B-15)



6) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 6 番のイチョウ

表 22 E-6 番のイチョウ (毎木調査番号 B-16)

並木 E 列 (秩父宮ラグビー場 へのアプローチ)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
E-6 事業者調査番号 16	20.0	248	10.0	a+ 健全

- ・ 樹形：良好
- ・ 樹勢：良好。
- ・ 先端部：良好
- ・ 剪定により樹形のバランスが崩れている。

環境影響評価書では、活力度は A となっています。移植は「不可」。理由は、「幅 1.5m の狭い植栽帯に根系充満。」と記載されています。評価書提出より、1 年が経過していますので、現時点での検討内容の公表をお願いいたします。(御回答は 2024 年 1 月 20 日までに、お願いいたします。)

御回答記入欄 (E-6, 毎木調査番号 B-16)



7) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 7 番のイチョウ

表 23 E-7 番のイチョウ (毎木調査番号 B-17)

並木 E 列 (秩父宮ラグビー場 へのアプローチ)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
E-7 事業者調査番号 17	20.0	268	10.0	a- 健全

	<ul style="list-style-type: none">・ 幹から分岐した枝が上方を向く、直立型のいちょう・ 円錐形 良い樹形・ 幹に保護シートあり	
		

環境影響評価書では、活力度は A となっています。移植は「不可」。理由は、「幅 1.5m の狭い植栽帯に根系充満。根鉢確保困難」と記載されています。評価書提出より、1 年が経過していますので、現時点での検討内容の公表をお願いいたします。(御回答は 2024 年 1 月 20 日までに、お願いいたします。)


御回答記入欄 (E-7, 毎木調査番号 B-17)



8) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 8 番のイチョウ

表 24 E-8 番のイチョウ (毎木調査番号 B-18)

並木 E 列 (秩父宮ラグビー場 へのアプローチ)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
E-8 事業者調査番号 18	20.0	249	10.0	a+ 健全



- 樹形・樹勢、良好
- 乳がある
- 先端部、良好






環境影響評価書では、活力度は A となっています。移植は「不可」。理由は、「幅 1.5m の狭い植栽帯に根系充満。根鉢確保困難」と記載されています。評価書提出より、1 年が経過していますので、現時点での検討内容の公表をお願いいたします。(御回答は 2024 年 1 月 20 日までに、お願いいたします。)

御回答記入欄 (E-8, 毎木調査番号 B-18)



9) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 9 番のイチョウ

表 25 E-9 番のイチョウ (毎木調査番号 B-19)

並木 E 列 (秩父宮ラグビー場 へのアプローチ)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
E-9 事業者調査番号 19	20.0	249	10.0	a+ 健全



- ・ラグビー場入口。南東部の黄葉が進んでいる。
- ・隔当たりがよいために、樹形・樹勢が優れている。
- ・先端部も良好である。






環境影響評価書では、活力度は A となっています。移植は「不可」。理由は、「幅 1.5m の狭い植栽帯に根系充満。根鉢確保困難」と記載されています。評価書提出より、1 年が経過していますので、現時点での検討内容の公表をお願いいたします。(御回答は 2024 年 1 月 20 日までに、お願いいたします。)


御回答記入欄 (E-9,毎木調査番号 B-19)




10) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 10 番のイチョウ


表 25 E-10 番のイチョウ (毎木調査番号 B-20)


並木 E 列 (秩父宮ラグビー場 へのアプローチ)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
E-10 事業者調査番号 20	20.0	298	10.0	a+ 健全



- ・ ラグビー場入口
- ・ 樹形・樹勢 良好
- ・ 先端部も、良好







環境影響評価書では、活力度は B となっています。移植は「不可」。理由は、「幅 1.5m の狭い植栽帯に根系充満。根鉢確保困難」と記載されています。評価書提出より、1 年が経過していますので、現時点での検討内容の公表をお願いいたします。(御回答は 2024 年 1 月 20 日までに、お願いいたします。)

御回答記入欄 (E-10,毎木調査番号 B-20)



11) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 11 番のイチョウ

表 26 E-11 番のイチョウ (毎木調査番号 B-21)

並木 E 列 (秩父宮ラグビー場 へのアプローチ)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
E-11 事業者調査番号 21	20.0	259	10.0	a- 健全



- ・ 不定根の誘導処置が行なわれている。
- ・ 樹形、葉の形が少し、小さい
- ・ 幹、補修が必要









環境影響評価書では、活力度は B となっています。移植は「不可」。理由は、「幅 1.5m の狭い植栽帯に根系充満。根鉢確保困難」と記載されています。評価書提出より、1 年が経過していますので、現時点での検討内容の公表をお願いいたします。(御回答は 2024 年 1 月 20 日までに、お願いいたします。)


御回答記入欄 (E-11, 毎木調査番号 B-21)




12) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 12 番のイチョウ


表 27 E-12 番のイチョウ (毎木調査番号 B-22)


並木 E 列 (秩父宮ラグビー場 へのアプローチ)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
E-12 事業者調査番号 22	20.0	231	10.0	a 健全



- ・ 枝が上にむくタイ
プのいちょう
- ・ 樹形：良好
- ・ 樹勢：良好
- ・ 先端部：良好







環境影響評価書では、活力度は A となっています。移植は「不可」。理由は、「幅 1.5m の狭い植栽帯に根系充満。根鉢確保困難」と記載されています。評価書提出より、1 年が経過していますので、現時点での検討内容の公表をお願いいたします。(御回答は 2024 年 1 月 20 日までに、お願いいたします。)


御回答記入欄 (E-12, 毎木調査番号 B-22)




13) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 13 番のイチョウ




表 28 E-13 番のイチョウ (毎木調査番号 B-23)

並木 E 列 (秩父宮ラグビー場 へのアプローチ)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
E-13 事業者調査番号 23	20.0	263	10.0	a+ 健全



- ・ 樹形・樹勢ともに優れている。
- ・ 葉のつき方のバランスよい。
- ・ 先端部：良好。
- ・ 枝下の傷は、大きくなる前に処置が必要。



環境影響評価書では、活力度は A となっています。移植は「不可」。理由は、「幅 1.5m の狭い植栽帯に根系充満。根鉢確保困難」と記載されています。評価書提出より、1 年が経過していますので、現時点での検討内容の公表をお願いいたします。(御回答は 2024 年 1 月 20 日までに、お願いいたします。)

御回答記入欄 (E-13,毎木調査番号 B-23)




ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

14) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 14 番のイチョウ

表 29 E-14 番のイチョウ (毎木調査番号 B-24)

並木 E 列 (秩父宮ラグビー場 へのアプローチ)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
E-14 事業者調査番号 24	20.0	224	10.0	a 健全



- ・ 樹形:良好
- ・ 樹勢:良好
- ・ 先端部:良好

環境影響評価書では、活力度は B となっています。移植は「不可」。理由は、「幅 1.5m の狭い植栽帯に根系充満。根鉢確保困難」と記載されています。評価書提出より、1 年が経過していますので、現時点での検討内容の公表をお願いいたします。(御回答は 2024 年 1 月 20 日までに、お願いいたします。)

御回答記入欄 (E-14,毎木調査番号 B-24)



15) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 15 番のイチョウ

表 30 E-15 番のイチョウ (毎木調査番号 B-25)

並木 E 列 (秩父宮ラグビー場 へのアプローチ)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
E-15 事業者調査番号 25	20.0	220	10.0	a 健全

・ 樹形：良好 ・ 樹勢：良好。
 ・ 枝・幹・枝葉の密度：良好。
 ・ 藓苔類がついている。

環境影響評価書では、活力度は B となっています。移植は「不可」。理由は、「幅 1.5m の狭い植栽帯に根系充満。根鉢確保困難」と記載されています。評価書提出より、1 年が経過していますので、現時点での検討内容の公表をお願いいたします。(御回答は 2024 年 1 月 20 日までに、お願いいたします。)

御回答記入欄 (E-15, 毎木調査番号 B-25)



16) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 16 番のイチョウ

表 31 E-16 番のイチョウ (毎木調査番号 B-26)

並木 E 列 (秩父宮ラグビー場 へのアプローチ)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
E-16 事業者調査番号 26	20.0	211	10.0	a 健全



- ・ 樹形：良好 ・ 樹勢：良好。
- ・ 枝・幹・枝葉の密度：良好。
- ・ 先端部：良好







環境影響評価書では、活力度は A となっています。移植は「不可」。理由は、「幅 1.5m の狭い植栽帯に根系充満。根鉢確保困難」と記載されています。評価書提出より、1 年が経過していますので、現時点での検討内容の公表をお願いいたします。(御回答は 2024 年 1 月 20 日までに、お願いいたします。)

御回答記入欄 (E-16, 毎木調査番号 B-26)



17) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 17 番のイチョウ

表 32 E-17 番のイチョウ (毎木調査番号 B-27)

並木 E 列 (秩父宮ラグビー場 へのアプローチ)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
E-17 事業者調査番号 27	20.0	205	10.0	a+ 健全

	<ul style="list-style-type: none">・ 樹形：良好・ 樹勢：良好・ 枝・伸長量：良好・ 樹形の円錐形が維持されている。・ 枝・幹・枝葉の密度：良好。	
		

環境影響評価書では、活力度は A となっています。移植は「不可」。理由は、「幅 1.5m の狭い植栽帯に根系充満。根鉢確保困難」と記載されています。評価書提出より、1 年が経過していますので、現時点での検討内容の公表をお願いいたします。(御回答は 2024 年 1 月 20 日までに、お願いいたします。)


御回答記入欄 (E-17, 毎木調査番号 B-27)




18) 港区道 1107 号線 (秩父宮ラグビー場エントランスの並木) E 列 18 番のイチョウ


表 33 E-18 番のイチョウ (毎木調査番号 B-28)


並木 E 列 (秩父宮ラグビー場 へのアプローチ)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
E-18 事業者調査番号 28	23.0	271	10.0	a+ 健全



- ・ 樹勢・樹形 良好
- ・ 先端部 良好。
- ・ 先端部から黄葉が始まっている。







環境影響評価書では、活力度は A となっています。移植は「不可」。理由は、「幅 1.5m の狭い植栽帯に根系充満。根鉢確保困難」と記載されています。評価書提出より、1 年が経過していますので、現時点での検討内容の公表をお願いいたします。(御回答は 2024 年 1 月 20 日までに、お願いいたします。)

御回答記入欄 (E-18,毎木調査番号 B-28)



(2) イチョウの仮移植地と土壌の内容の公表の要請

「移植検討」とされる場合、仮移植地の場所と、建国記念文庫の森をはじめ、他のエリアからの移植樹木全体の仮移植地の場所と位置を表示した図面の公表を要請いたします。なお、御親兵衛の森は、常緑落葉混交林であり、安定した群落を構成しているため、移植可能なエリアは、限定されていることを申し添えます。

新国立競技場の移植にあたっては、時期や土壌条件の計画が不十分であり、結果的に移植樹木の生育は極めて劣悪となっています。移植プログラムと仮移植地の土壌について公表を、お願いいたします。

(3) 最終の植栽地（中央広場）における移植樹木の正しい樹幹、樹種が判読できる図面の公開の要請。18本のイチョウの「正しい大きさ」を踏まえた位置の明示と公表の要請。

環境影響評価書には、詳細調査を反映した移植樹木の植栽計画図が掲載されています（図6）。この図面に記載されたイチョウは、既存のイチョウより樹冠は半分ほどのスケールで描かれており、隣接して移植される樹木は、シイノキ、ヒトツバタゴ、ケヤキ、エノキと、森林生態系の再生を目指す目標とは乖離している樹林となっています。また、互いに高木であるため、競合が生じ、健全な成長を期待することはできせん。正しいスケールの計画図の提示、公表を行うことを要請致します。

なお、事業者は、創建時からのヒトツバタゴの大木 2 本を移植されると記載されておりますが、この計画図には、小さなヒトツバタゴは、わずかに 2 本記載されているにすぎません。また、南面にスダジイ等の常緑広葉樹がある環境では陽光性のヒトツバタゴは、成長していくことができません。重要なヒトツバタゴの大木、そして 10 本以上にのぼるヒトツバタゴは、どこに消えてしまったのでしょうか。2023 年 1 月 23 日の要請書で、既に指摘してありますが、植栽計画の基本を御存知ない方が書かれている植栽図です。速やかに正確なスケール、森林生態系を踏まえた計画図を、御提示ください。

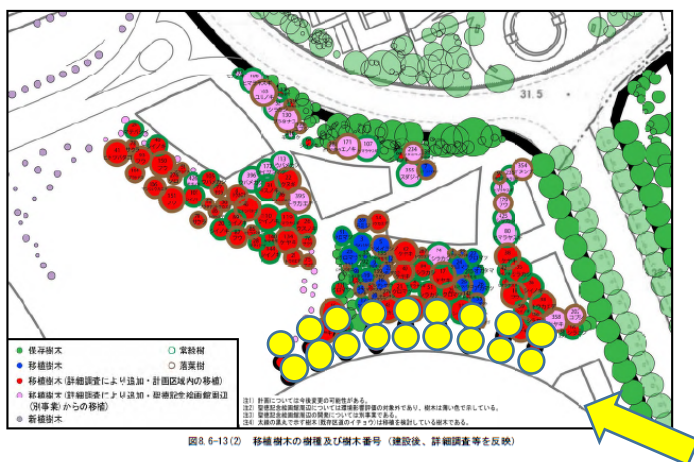


図6 中央広場における植栽樹種と移植樹木番号
 (環境影響評価書 350 頁)

なお、「近代風景式庭園」の導入部となる並木は直線であり、曲線の並木は基本的なデザイン意匠を破壊するものです。「近代風景式庭園の名作」である神宮外苑には不適切です。速やかな計画の変更が必要です。

● 実際のイチョウの大きさ
 正しい図面を提示すべき。
 曲線の並木はデザイン意匠の
 基本に反する。



4. 市街地再開発事業に伴い、想定される影響

(1) 神宮球場の建設に伴う影響

神宮球場の建設に伴う影響で、最も深刻なものは、前述したように、イチョウ並木の縁石からわずかに8m、実質的なイチョウの樹幹からは、わずかに4mの位置に、神宮球場の外野席が立ち上がり、基礎杭が40mの深さに打ち込まれるため、地下水の循環が絶たれることにあります。日照、通風による環境悪化、そして、防球ネットが25m立ち上がることは、ヴィスタ景を破壊することとなります。

事業者が提案しておられる野球場の基礎を、数メートル浅くする対策は、雨水を受けるエリアは全く拡大しませんので、意味をなさない提案であると、複数の樹木医の皆様からも、コメントを頂戴しております。

また、神宮球場が計画されているエリアは、根張りがみられないことから、豊かな土壌が創建時につくりだされ、地中に深く根系が展開していると想定されます。2023年1月に実施された根系調査は、非公開であり、しかも1年を経過しましたが、いまだにデータは公開されていません。根系の保護、土壌分析と固結化の防止など、基本的事項に関する検討が、環境影響評価書には皆無となっています。

(2) 文化交流施設の建設に伴う影響

文化交流施設の建設と中央広場に関するイチョウ並木への影響は、環境影響評価書の中では、全く考察されていません。日本イコモスは、すでに2023年1月23日にこの問題を指摘しましたが、一斉の回答はありませんでした。図7に示すように、2023年11月にはり、一層の衰退が進んでいるA-22のイチョウが動線上にあります。詳細な検討が必要です。

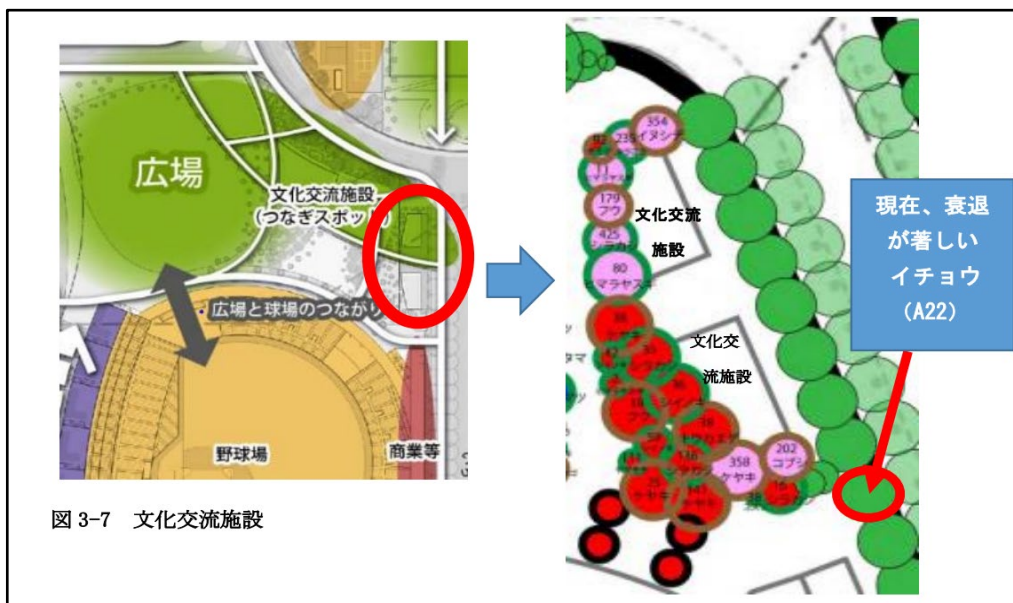


図 3-7 文化交流施設

図 7 文化交流施設の建設とイチョウ並木



ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

図8は、事業者の外苑まちづくりに掲載されている中央広場です。青山口から一直線に伸びて、芝生広場にいたるA列23~30番のイチョウは、樹形も美しい重要なイチョウです。計画では緑地帯が削減され、文化交流棟のアクセス道路として舗装されることとなっています。文化交流棟の中央広場側は移植樹木の樹林帯となっており、樹林の保護のため、アクセスはできません。イチョウの生育に大きな環境の負荷が生じます。説明が必要です。

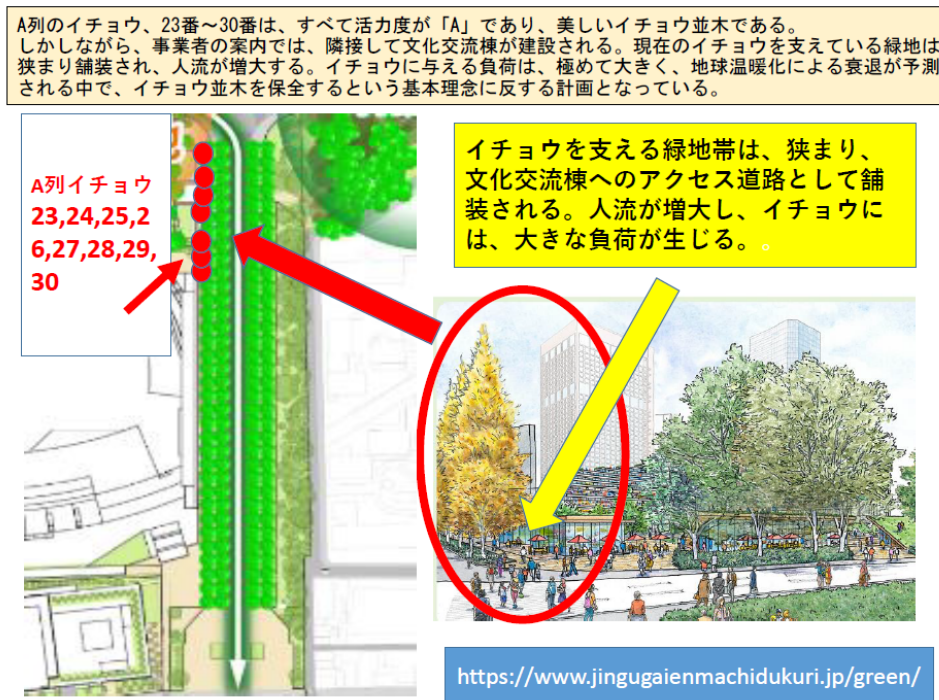


図8 中央広場とイチョウ並木（事業者計画）

(3) 再開発による近代の名作・神宮外苑のヴィスタ景の破壊

神宮外苑は、これまで述べてきたように、新宿御苑、神宮内苑、神宮外苑と20世紀初頭に創り出された「近代風景式庭園」の様式美にもとづき設計されました。この典型的事例がニューヨークの民主主義の庭として知られるセントラルパークで、五番街から一直線に並木道がベツセスダ・テラスに向かって伸びています。ヴィスタ景が重視されており、ニューヨーク市民により手厚く保護されています。

新宿御苑も、この意匠を踏まえて、ベルサイユ園芸学校のアンリ・マルチネの原案を踏まえて、福羽逸人が創り出したものです。正門からの導入部はプラタナスの4列の並木道となっており、直線であり、ヴィスタ景を演出するための重要な並木道となっています（写真37）。写真38は、失われようとしている秩父宮ラグビー場へ続く並木です。

これに対して、図9、10は、環境影響評価書に記載されている再開発の全体図です。秩父宮ラグビー場に至る18本の並木道は、ヴィスタ景の原則を貫くものですが、事業者の計



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

画図では、外苑のシンボルであるイチョウ並木のヴィスタ景が破壊され、商業施設が出現することとなります。この意匠に関しては、ほとんど議論されてきませんでした。誠に憂慮すべき事態であり、近代の名作を、社会の力で、なんとか守っていきたく存じます。



写真 37 新宿御苑のプラタナスの並木

写真 38 失われる秩父宮ラグビー場への並木



外苑における
ヴィスタ景の破壊

図9 外苑におけるヴィスタ景の破壊（環境影響評価書、保存・移植・新植樹木の分布図に記載。341頁）



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

5. むすび

東京都心では、江戸期に構築された大小の池泉回遊式庭園（特別名勝・小石川後楽園等）が手厚く保存されています。20世紀初頭には、首都にふさわしい文化的資産として神宮内苑・外苑が、代々木及び青山練兵場の跡地に整備され、これらを並木道で結ぶパークシステムという「革新的都市計画」が実施され、その都市構造は、現代に力強く継承されています。

国際イコモスは、「江戸の庭園文化」と「近代のパークシステム」が融合した都市構造は、東京の有するかけがえのない文化的資産であるとして、新しい用語である「**庭園都市パークシステム**」を保全・継承していくことが重要であるとし、2023年9月7日、神宮外苑の再開発の撤回を求めるヘリテージ・アラートを発しました。[Heritage Alert Jingu Gaien - International Council on Monuments and Sites \(icomos.org\)](https://www.icomos.org)

現時点で、事業者及び開発を認可した東京都からは回答はありませんが、事業者が保全すると確約している「イチョウ並木」に関して、この間、日本イコモス、環境影響評価審議会、そして地元である港区区民、港区議会、港区長からも、数多くの疑問、そして説明と情報の提供が求められてきたところです。

なによりも、**事業者がすべて健全と評価しているイチョウに深刻な衰退が生じている**ことが、住民の皆様にも、「目視で確認できる」ほど顕著となってきたため、審議会からも最新の情報の提供を再三にわたって求められました。『東京都環境影響評価技術指針』では、「**現況調査に当たっては、可能な限り最新のデータを得るように努めるものとする**」と明記されています（参照：技術指針16頁）。

しかしながら、事業者におかれましては、これらの声に一斉、耳を傾けることなく、「春には新芽がでていることを確認している」という答弁のみで、追加調査を行う期間があったにも関わらず、イチョウ並木に関しては実施されませんでした。2023年5月18日の「東京都環境影響評価審議会」第2回総会では同様の答弁が繰り返され、会長より「評価書の調査・予測・評価に重大な変更が生じる手続き上の問題、誤り、虚偽はなかったことが確認された」として審議は終了となりました。

日本イコモスは、このような事態は、科学的調査にもとづく環境影響評価の土台を揺るがし、民主主義の危機を招いているとの認識から、2022年11月から2023年11月まで、イチョウの状況に対して、緻密な調査を複数の樹木医の皆様のご協力の下に進めてまいりました。調査の前提は以下の通りです。

- ・日本イコモスは、環境影響評価書に提示された5年前の調査（2018年12月～2019年1月）に、異論を申し立ててはおりません。樹木医により下された評価は、正しいものと認識しております。
- ・この5年前の評価が、現状と乖離していなければ、事業者の主張される通り、見直しは行う必要がありません。また、審議会会長が下された「虚偽はなかった」という判断も正しいものと考えます。
- ・この前提を踏まえて、環境影響評価書に記載されている「活力度測定項目」（樹勢、樹



ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

形、枝伸長量・大枝・幹の欠損・傷、梢端の枯損等について、公道より観察を行いました。もとより私共は調査をする許可を受けている訳はないため、正確な判断は、現在、行われている事業者の調査によるものとなりますが、以下の点が判明いたしました。

<日本イコモスの実施したイチョウ並木調査（2022年11月～2023年11月）により明らかとなった、環境影響評価書の内容との大きな乖離>（図10，表34参照）

1. イチョウ並木は、事業者が提出された「すべて健全」（活力度A～B）ではなく、著しい枯損と衰退が進んでいることが判明しました。
2022年11月には、著しく衰退しているイチョウは1本（A-11）でしたが、2023年11月には、4本に増加しました（A-11，A-16，A-18，A-22）。
2. 衰退の兆候がみられ、慎重な経過観察が必要なイチョウは、4本となりました（A-12，A-17，A-20，A-26）。
3. これらは、すべて、隣接地に保護してくれる樹林帯がないテニスコートに面しており、イチョウの保存は周辺環境と一体として行う必要があることが判明しました。隣接地に残存する樹木の伐採は、根系の損傷も含めて、甚大な負荷をイチョウに与えるものと推察されます。
4. イチョウの現況が正しく調査されていないため、再開発による影響は、環境影響評価書では、ほとんど検証されていません。
5. 2022年11月～2023年11月の変化は、急激であり市民の眼にも明らかにわかる事態となっていますが、情報の開示は皆無の状況にあります。原因の究明には、専門的調査が必要ですが、沿道における過度の土地利用に加えて、猛暑日の連続等、**地球温暖化による都市気象の変化が大きな要因になっているものと推察されます。**
5. また、健全ではありますが、外苑イチョウの特色である円錐形の樹形に不可逆的变化が生じているイチョウが2本確認されました（A-29,C-13）。
6. 港区道1107号線の18本のイチョウは、すべて樹木医により、「移植不可」と診断されていますが、「移植検討」と変更が記載されているのみで、説明は一切、なされていません。

以上、1年間の精査により、2023年1月に提出された環境影響評価書の記載には、現状との著しい乖離があることが判明しました。この間、事業者に対しては、再三にわたり、事実を明確にすること、そして情報の開示を審議会、日本イコモス、港区区民、港区議会、港区長から求められておりましたが、イチョウに関しては誠意ある対応が行われませんでした。イチョウの衰退は、事業者も認識していたと回答されており、したがって、これは単なる誤りではなく、「虚偽の報告」と判断されます。

東京都知事小池百合子様におかれましては、東京都環境影響評価条例第九十一条第一項第五号の規定に基づき、当該事業者に対し、必要な措置を講ずるよう勧告をお願い申し上げます。また、事後報告ではなく、環境影響評価審議会の再審を要請致します。



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org



神宮外苑いちょう並木 位置図。●は伐採もしくは移植が予想される樹木

図10 神宮外苑イチョウ並木 イチョウの現状評価図 (2023年 11月)

作成：日本イコモス国内委員会



表34 凡例
 神宮外苑イチョウ並木 イチョウの現状評価図
 2023年11月

評価	マーク	本数	内容
健全 a+	●	48本	樹形・樹勢・先端部の状況・枝の慎重状況と緑量、地上部の状況など、極めて良好であり、健全。
健全 a	●	56本	樹形・樹勢・先端部の状況・枝の慎重状況と緑量、地上部の状況など、良好であり、健全。
健全 a-	●	28本	樹形・樹勢・先端部の状況・枝の慎重状況と緑量、地上部の状況など、良好であるが、一部、生理的バランスの崩れ、剪定による樹形のバランスの崩れ、過度の利用等により問題が生じている。
良好 b	●	4本	樹形・樹勢は、比較的良好であるが、先端部が枯損しており、今後の慎重な経過観察が必要である。個々の樹木の問題に対し、データ分析を行い、適切な維持管理方針の策定と実施が必要である。
要注意 c	●	4本	樹形・樹勢・先端部の状況・枝の伸長状況と緑量など、衰退がみられ、今後、環境の変化により、生育に重大な問題が生じる可能性がある。現在の問題の分析を行い、イチョウの持続的生育のために、適切な維持管理施策の導入を早急に行う必要がある。
著しく衰退 d	●	4本	樹形・樹勢・先端部の状況・枝の伸長状況と緑量に大きな問題が生じており、一部では完全に枯損している部位が生じている。円錐形の外苑における「イチョウの樹形」を回復することは、不可能となっているイチョウもあり、今後の対策について検討が必要である。
梢の形態の著しい変化 e	●	2本	樹木全体は、概ね健全であるが、先端部の形状に著しい変化が生じており、外苑特有の「円錐形のイチョウ」の樹形を回復することは困難となっており、今後、樹形については、根本的な検討が必要である。
合計		146本	



<参考>

図 11 神宮外苑イチョウ並木 評価図 (2022年11月)

表 34 凡例 神宮外苑イチョウ並木 評価図 (2022年11月)



神宮外苑いちょう並木 位置図。●は伐採もしくは移植が予想される樹木

評価	本数	内容
健全	a+	51本
	a	56本
	a-	28本
良好	b	5本
要注意	c	5本
著しく枯損	d	1本
合計	146本	